

# 育苗箱全量施肥 + 後乗せ施肥で 地力の低いほ場の収量アップ(ひとめぼれ)

## 後乗せで収量向上

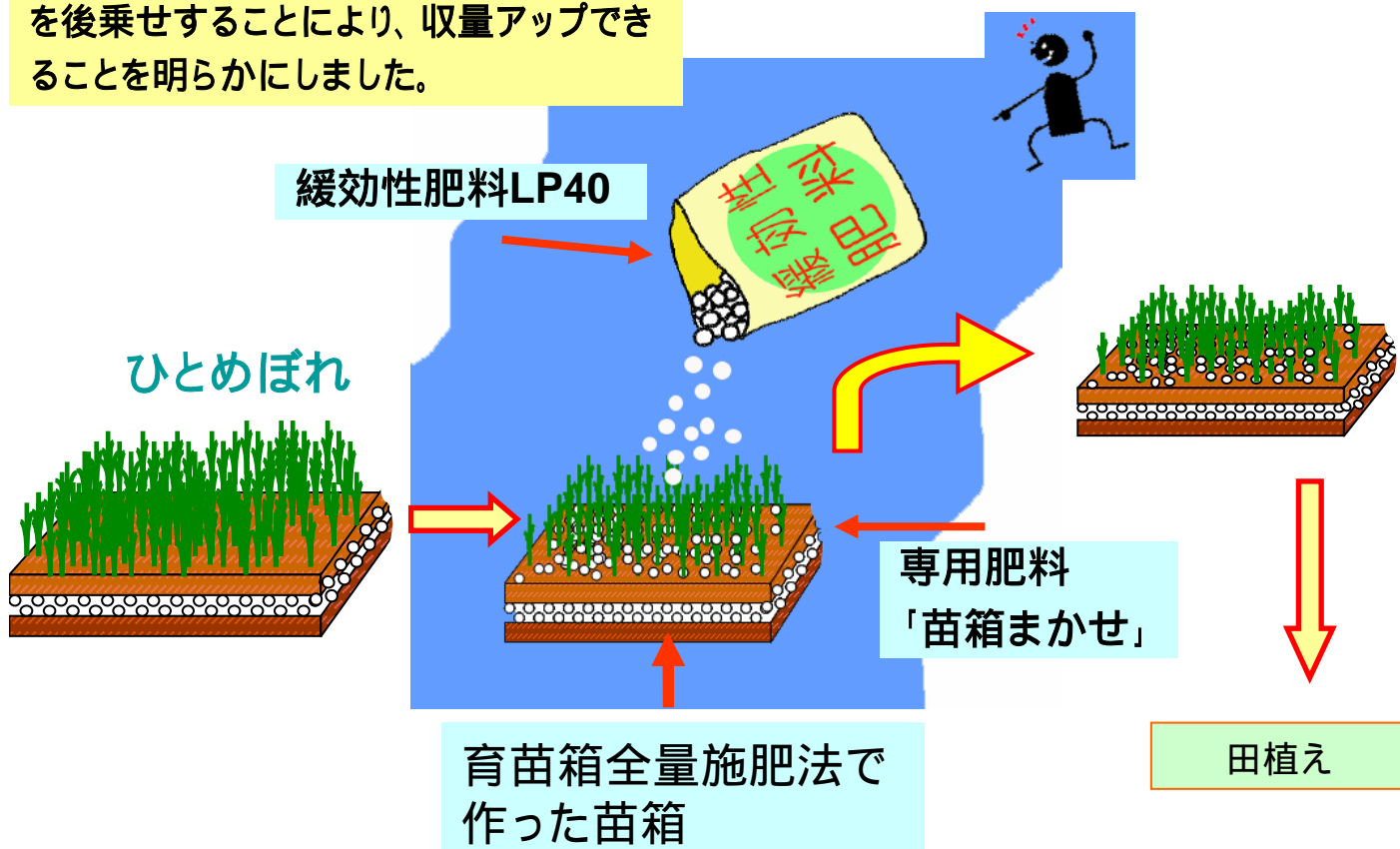
「育苗箱全量施肥法」は、ほ場への窒素施肥作業が不要で省力となるため、年々取り組みが増えています。しかし、ほ場ごとの地力差に応じて施肥量を変えることが苦手な施肥法でした。

このため、地力の低いほ場では施肥量が不足して収量が劣ることがありました。

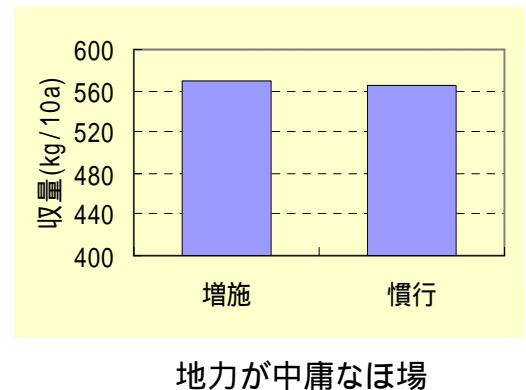
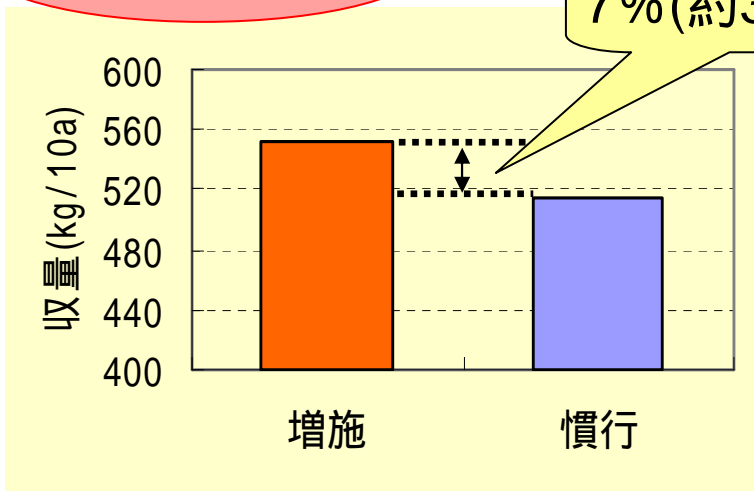
そこで、移植前に育苗箱に緩効性肥料を後乗せすることにより、収量アップできることを明らかにしました。



地力の低いほ場では  
どうやって収量を確保  
しようか…。



## ひとめぼれ



## 地力が低いほ場

LP40の後乗せ増施により  
収量が約7%増えました。

後乗せ増施: 後乗せ肥料 LP40 (窒素  
0.5kg/10a) + 苗箱まかせ (窒素4.5kg/10a)

慣行: 苗箱まかせ (窒素4.5kg/10a)

<肥料の説明>

「苗箱まかせ」は育苗箱全量施肥法での専用肥料、LP40は40日間肥効が持続する緩効性肥料です。

活用面: 施肥窒素量が不足していると考えられるほ場(周辺ほ場と比較して穂数・一穂粒数・収量が少ない、倒伏程度が軽度)に実施する。

## 後乗せ後の苗箱の取扱い

移動や田植え作業前に灌水しておくとも肥料はこぼれ落ちにくくなります。

後乗せ後に、苗を丸める・ひっくり返すなどすると肥料がこぼれ落ちるので丁寧に扱う必要があります。

## 移植3日前から乗せても大丈夫

移植3日前よりも早く乗せると  
肥料焼けを起こしやすくなります。  
注意しましょう。

### <お問い合わせ先>

鳥取県農業試験場 環境研究室

TEL (0857)-53-0721

本書から転載複製する場合には  
必ず鳥取県農業試験場の許可を受けて下さい